

次の文章と、図書委員の野中さんがこの文章の本を紹介するために書いた【本の紹介カード】を読んで、あとの問いに答えなさい。

俺（神谷）は陸上部の四百メートルリレー（4継）のメンバー（リレメン）の一員である。全国レベルの実力をもつ一ノ瀬連は、大会前に足の肉離れを起こし、顧問の三輪先生から出場を止められたが、先生に内緒で練習を行っていた。今度の大会は部長の守屋にとって、負ければ引退試合となる試合である。

「先生、すみません」

謝ったのは、守屋さんの声。守屋さんが連の隣に来て、連の頭を無理やりぐいと押すようにして、二人で礼をした。

「先生、勘弁してください。言いつけを破ってすみません。無茶してすみません」

「おまえが謝ることア……」

言いかけた先生の言葉を守屋さんは遮った。

「部長として部員の管理が行き届きませんでした。俺がもつとこいつに言つて聞かせないといけませんでした」

連が何か言いたそうに守屋さんを見たが、構わずに続けた。

「どこかで俺自身が一ノ瀬に期待していたのかもしれない。こいつと走ることをあきらめきれなかったのかもしれない。俺にそんな気持ちがあつたとしても、一ノ瀬があきらめてくれるわけがないです。自分勝手でした。もし、こいつに何かあつたら……」

守屋さんは、その先までは言わずに唇をかみしめた。

連は黙って、守屋さんの横顔を見ていた。あきらめきれない無念そうな表情が、初めて連の顔に表れた。ずっと隠していた表情。心の内を連は決して顔には出さず、意固地に淡々と逆らい続けていた。一度、

【本の紹介カード】

チームのために……

このチームの仲間とともに、走りたい。

自分のためだけではなく、仲間のために……

大切に思うからこそ感じる苦しさ、辛さ、その先にあるチームの絆……

登場人物の心情が胸に迫る一冊です。



一瞬の風になれ
第二部「ヨウイ」
佐藤多佳子

悔しさをあからさまに表に出してしまつたと、ゆっくりと少しずつ顔つきが変わつていった。連の中で何かがほどこけていくようだった。そうか……。俺はようやく理解した。守屋さんだ。守屋さんのために、連は走りたがつていた。4継という競技の魅力以上に、南関東という舞台の華やかさ以上に、連にとって大きなものがあつたんだ。

「俺たちに任せてくれ、一ノ瀬」

守屋さんはきつぱりと言つた。

「桃内、神谷、根岸、守屋、みんなで、めいっばい走るよ」

めいっばい走ると大声で誓わないといけないのだが、声が出せなかった。泣きそうだった。根岸も、桃内もかたまつたように黙っていた。三輪先生は、口を一字に引き結んで、何度もまばたきをしていた。長く重い沈黙のあとで、「ハイ」やつと、連がそう言つた。

その時の連の目や声が、しばらく頭から離れなかった。悔しさや悲しさをふつと越えたような素直な目と声だった。

（佐藤多佳子「一瞬の風になれ 第二部「ヨウイ」による。）

一 「本の紹介カード」に「チームの絆」とありますが、文章中でチームの絆が感じられる守屋さんの発言はどれですか。次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 「無茶してすみません」
- 2 「どこかで俺自身が一ノ瀬に期待していたのかもしれない」
- 3 「自分勝手にした」
- 4 「俺たちに任せてくれ、一ノ瀬」

二 「本の紹介カード」の  で囲んだ部分は、文章のどの一文に具体的に書かれていますか。文章中からその一文を探し、はじめの五字を抜き出しなさい。(句読点も一字として含めます。)

三 —— 線部「唇をかみしめた」とあるが、この表現は守屋さんのどのような気持ちを表しているか、書きなさい。

四 前田さんは、「本の紹介カード」にある「登場人物の心情が胸に迫る、心理描写」に着目して文章を読み、感じたことや考えたことなどを読書ノートに書くことにしました。

あなたなら、〈心に残った一文〉と〈感想〉にどのようなことを書きますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 〈心に残った一文〉は、文章中から、登場人物の心情をえがいた表現が含まれる一文を抜き出して書くこと。

条件2 〈感想〉は、条件1で取り上げた表現について、「誰(何)」の「どのような」様子なのかを明示した上で、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

〈心に残った一文〉

〈感想〉